

令和 2 年 度

事 業 報 告 書

社会福祉法人 福島福祉施設協会

I 事業報告

1. 福祉施設経営

福島市の総合福祉施設経営団体として、合理的かつ能率的な施設経営を行うとともに、地域住民や利用者の要望に対処するように努めた。地域社会と密接な連携を保ち、施設機能の活用を図ながら地域福祉の向上に努めた。

2. 法人運営

- (1) 社会福祉法人としての重要な役割を果たすべく、経営組織をもって事業運営に関する透明性の向上ができるよう諸規程の整備を行った。
- (2) 職員の人材確保のため、広報活動を盛んに行い、適時に職員採用試験を実施し、2名の優秀な人材を採用した。
- (3) 利用者の立場にたち、多様化するニーズに的確に対応出来るように満足度調査や第三者評価を受審し、自主的改善に努めた。
- (4) よりよい福祉サービス提供のため、職員が心身ともに元気に働ける職場を目指した健康づくりや職員処遇改善全般の向上に努めた。

3. 重要な取り組み

- (1) 法人経営の安定的な継続や地域社会の説明責任を果たし信頼を高めるため、中長期計画検討会メンバーを中心に中長期計画の策定を進めた。
- (2) 会計監査導入に向けた取り組みとして、固定資産物品の管理台帳やリース台帳の整備に努めた。
- (3) 多様な人材の雇用として、障がい者の継続的な雇用に努めた。
- (4) 避難先確保のため避難場所提供の覚書を交わし、安全対策に努めた。
- (5) 職員の人材確保と定着に努めるとともに、各種研修を通じ社会福祉理念、技術の習得向上など法人全体の福祉サービス向上に努めた。

- ・全体研修 フィードバック研修

- 主任、副主任部門（1回）

- 正規職員若年層部門（1回）

- 無期雇用、臨時雇用部門（1回）

- ・管理職研修「管理者としての『伝える力』の向上」（2回）

- ・次世代リーダー研修「後輩へのOJTスキルの習得」（4回）

- ・新規採用職員研修（年5回）

- ・防災研修「防災の対応について」（1回）

- ・ハラスメント防止研修（1回）

- (6) 健康診断後の二次健診を徹底し、健康づくりに努めた。
- (7) 計画的な年次有給休暇の取得を促進し、周知徹底や実績調査の実施により確実な年次有給休暇取得に努めた。
- (8) その他

創立40周年記念事業として実行委員会を立ち上げ、記念誌「40年のあゆみ」を発行した。

4. 評議員会・理事会・監事会の開催

(1) 評議員会

定時 令和2年6月24日（水）

- | | |
|----------|----------------------------|
| 報告第 1 号 | 令和元年度事業報告 |
| 議案第 1 号 | 令和元年度決算承認の件 |
| 議案第 2 号 | 令和 2 年度各会計資金収支補正予算 |
| 臨時第 1 回 | 令和 2 年 12 月 21 日 (月) |
| 議案第 3 号 | 役員等報酬規程の一部変更の件 |
| 議案第 4 号 | 令和 2 年度各会計資金収支補正予算 (第 2 回) |
| 臨時第 3 回 | 令和 3 年 3 月 24 日 (水) |
| 議案第 5 号 | 令和 2 年度各会計資金収支補正予算 |
| 議案第 6 号 | 定款の一部変更の件 |
| 議案第 7 号 | 役員等報酬規程の一部変更の件 |
| 議案第 8 号 | 令和 3 年度事業計画策定の件 |
| 議案第 9 号 | 令和 3 年度各会計資金収支予算 |
| 議案第 10 号 | 理事選任の件 |

(2) 理事会

第 1 回 令和 2 年 6 月 9 日 (火)

- | | |
|---------|--------------------|
| 議案第 1 号 | 令和元年度事業報告承認の件 |
| 議案第 2 号 | 令和元年度各会計決算承認の件 |
| 議案第 3 号 | 令和 2 年度各会計資金収支補正予算 |
| 議案第 4 号 | パソコン購入契約締結方法決定の件 |
| 議案第 5 号 | サーバー購入契約締結方法決定の件 |
| 議案第 6 号 | 定時評議員会招集事項決定の件 |

第 2 回 令和 2 年 12 月 11 日 (金)

- | | |
|----------|------------------------------------|
| 議案第 7 号 | 介護職員等の処遇改善に係る手当の支給に関する規程の一部変更の件 |
| 議案第 8 号 | 保育所職員に対する処遇改善に係る手当の支給に関する規程の一部変更の件 |
| 議案第 9 号 | 役員報酬規程の一部変更の件 |
| 議案第 10 号 | 保育所職員に対する一時金支給に関する規程制定の件 |
| 議案第 11 号 | パソコン購入契約締結の件 |
| 議案第 12 号 | サーバー購入契約締結の件 |
| 議案第 13 号 | 令和 2 年度各会計資金収支補正予算 (第 2 回) |
| 議案第 14 号 | 令和 2 年度第 1 回臨時評議員会招集事項決定の件 |

第 3 回 令和 3 年 2 月 15 日 (月)

- | | |
|----------|----------------|
| 議案第 15 号 | 保育所管理規定の一部変更の件 |
|----------|----------------|

第 4 回 令和 3 年 3 月 16 日 (火)

- | | |
|----------|-----------------------------|
| 議案第 16 号 | 定款の一部変更の件 |
| 議案第 17 号 | 役員等報酬規程の一部変更の件 |
| 議案第 18 号 | 経理規程の一部変更の件 |
| 議案第 19 号 | 職員給与規定の一部変更の件 |
| 議案第 20 号 | 就業規則の一部変更の件 |
| 議案第 21 号 | 無期雇用転換職員に雇用等に関する規程の一部変更の件 |
| 議案第 22 号 | 臨時雇用職員の雇用等に関する規程の一部変更の件 |
| 議案第 23 号 | 介護職員等の処遇改善に係る手当の支給に関する規程の一部 |

変更の件

議案第 24 号	保育所職員に対する一時支給に関する規程制定の件
議案第 25 号	令和 2 年度各会計資金収支補正予算（第 3 回）
議案第 26 号	令和 3 年度事業計画作成の件
議案第 27 号	令和 3 年度各会計資金収支予算
議案第 28 号	令和 2 年度第 2 回臨時評議員会招集事項決定の件
議案第 29 号	施設長等選任の件
第 5 回 令和 3 年 3 月 24 日（水）	
議案第 30 号	役員等賠償責任保険契約締結の件
議案第 31 号	福島恵風園給食業務委託契約締結の件
議案第 32 号	福祉サービス苦情解決第三者委員選任の件
議案第 33 号	評議員選任・解任委員選任の件

監事会

令和 2 年度 業務執行、財務状況監査

令和 2 年 5 月 27 日（水） 28 日（木）

令和 2 年度 現地視察

令和 2 年 9 月 24 日（木）

福島恵風園デイサービスセンター、めぐみの風居宅介護支援センター、
ホームヘルプステーションめぐみ、福島ふたば保育園、飯坂保育所、
福島市野田児童センター

5. 役員等研修会への参加

令和 2 年度 社会福祉法人監事研修

主 催 社会福祉法人福島県社会福祉協議会

期 日 令和 2 年 10 月 26 日（月）

場 所 郡山ユラックス熱海

出席者 阪内 戦三郎

令和 2 年度 社会福祉法人理事研修

主 催 社会福祉法人福島県社会福祉協議会

期 日 令和 2 年 11 月 18 日（水）

場 所 ビッグパレットふくしま

出席者 大竹 美恵子

令和 2 年度 社会福祉法人評議員研修

主 催 社会福祉法人福島県社会福祉協議会

期 日 令和 2 年 12 月 11 日（金）

場 所 郡山ユラックス熱海

出席者 紺野 啓三、福地 恵子

令和 2 年度 福島県社会福祉法人経営協・全国経営者協議会共催セミナー（後期）

主 催 社会福祉法人福島県社会福祉協議会・経営者協議会

期 日 令和 3 年 3 月 8 日（月）

場 所 オンライン研修

出席者 渡辺 千賀良

6. 職員研修の実施

令和2年度 新規採用職員研修会

期 日 令和2年5月から11月（全4回）
場 所 オンライン研修
内 容 ①社会人としての基礎理解・基本的姿勢を学ぶ
②職場内人材育成に関する重要性と基礎知識を学ぶ
出 席 者 ①新規採用職員2名 ②職員転換制度採用職員2名

令和2年度 管理職研修会

期 日 令和2年10月21日（水）、令和3年2月24日（水）
場 所 協会会議室
内 容 管理者としての「伝える力」の向上
出 席 者 10名

令和2年度 全体研修（主任・副主任）

期 日 令和2年6月27日（土）
場 所 吉井田支所大会議室
内 容 フィードバック講座
出 席 者 26名

令和2年度 全体研修（若年層職員）

期 日 令和2年9月12日（土）
場 所 福島市市民会館
内 容 フィードバック講座
出 席 者 24名

令和2年度 全体研修（無期雇用・臨時職員）

期 日 令和2年10月10日（土）
場 所 とうほうみんなの文化センター2階会議室
内 容 フィードバック講座
出 席 者 66名

令和2年度 次世代リーダー職員研修会

期 日 令和2年6月29日（月）、7月21日（火）、8月27日（木）、
11月4日（水）
場 所 吉井田支所大会議室、福島市リサイクルプラザ研修室
内 容 後輩へのOJTスキルの習得
出 席 者 15名

令和2年度 防災研修（施設長、主任）

期 日 令和2年7月2日（木）
場 所 吉井田支所大会議室
内 容 防災の対応について
参加人数 26名

令和2年度 ハラスメント防止研修（施設長、主任）

期 日 令和2年8月25日（火）
場 所 吉井田支所大会議室
内 容 施設管理者としてのハラスメントについて学ぶ
参加人数 30名

7. 苦情受付

(1) 令和2年度苦情受付件数

施設分類	件数	内容
高齢者施設	4件	対応2、環境1、その他1
保育所	7件	保育サービス5、その他2
児童センター	2件	その他2
合計	13件	

(2) 苦情内容

高齢者施設	苦情申出人	地域住民
	苦情内容	<p>デイサービス利用者送迎時の車両の運転に関する地域からの苦情</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デイサービスの車とぶつかりそうになった。 ・ウイカーも出さずに左折してきたので、危険な運転をしないで欲しい ・高齢者の命を預かっているのだから安全運転を徹底して欲しい。
	処理内容	<p>当該職員に状況を確認する。苦情申出人が危険と判断しクラクションを鳴らした状況が確認されたため、相談員より謝罪の電話を入れる。申出人からは、「再度、安全運転を徹底してほしい」との話があり、再発防止に努めていくこととした。</p>

保育所	苦情申出人	保護者
	苦情内容	<p>保護者への対応に関する苦情</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもや保護者への言葉かけや対応を改めてほしい ・個人情報に関する内容を聞くときは十分に留意してほしい
	処理内容	<p>保護者への話も伝え方によっては、相手を不快な思いにさせてしまうため日頃より信頼関係を築いていくようにする。 個人情報に関する内容を聞くときは、部屋を別にするなど個別に対応し、細心の注意を払うようにしていく。</p>

児童センター	苦情申出人	保護者(母親)
	苦情内容	<p>児童厚生員の子ども達に対する言動や接し方に対する苦情</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが「先生が怖い」と言って児童センター行きたがらない。
	処理内容	<p>事実を確認し、当該職員には言動や子どもとの関わり方に留意していくように指導する。 改善後は、保護者から「よく対応していただき、安心して利用できる」との話がある。</p>

8. 地域における公益的な取組

(1) 情報の発信

① 健康に関する情報の発信、介護相談窓口

発信方法：地域の方が多く集まる地区の文化祭において情報のパンフレットを配布

内容：情報発信と同時に、介護に関する悩み・困りごとの相談窓口を開設し連絡先と担当者名をパンフレットの中に記載

取組施設：福島恵風園デイサービスセンター
めぐみの風居宅介護支援センター
ホームヘルパーステーションめぐみ

② 「おかあさん だいじょうぶ！」

発信方法：当協会ホームページの専用ページに掲載

内容：子育てに悩んでいる保護者を対象に専門職である保育士・栄養士から子育てや食育に関する情報を毎月1回発信
子育て情報

テーマ「子育てのヒント～身近なあそび～」

食育情報

毎月の季節に合った食の情報、保育所のレシピ紹介

取組施設：福島隣保館保育所、福島保育所、瀬上保育所
福島わかば保育園、福島ふたば保育園、飯坂保育所

Ⅱ 実績報告書

養護老人ホーム 福島恵風園

1. 運営管理

- (1) 入所者が限られた環境の中で快適な生活を送れるよう工夫した。
- (2) 介護の必要な入所者は介護保険サービスを利用し、機能の維持を図った。
- (3) 被虐待高齢者、また一人暮らしによる生活苦の高齢者、身元引受人のいない高齢者を積極的に受け入れた。
- (4) 100名の定員を充足するため、生活支援を必要としている高齢者を入所につなげるよう福島市、近隣市町村、地域包括支援センターに働きかけた。
- (5) 養護老人ホームの入所の実態が入所基準と大差があるため、行政へ現状の報告と実状に合った職員配置を要望した。
- (6) 福島市あらかわクリーンセンターからの給湯の活用をした。
- (7) 災害時における入所者及び職員の避難受入れ要請に関する覚書を医療法人白寿会と締結した。
- (8) 避難訓練の実施（火災・水害・地震等）

2. 職員体制

- (1) 職員間の共通課題意識向上のため、各種研修会へ参加した。
- (2) 夜間業務は夜間専門員及び慈恵会との委託契約で対応した。
- (3) 給食業務を日清医療食品株式会社に継続委託した。

3. 施設整備

- (1) 居室内装改修工事 造付けベッド撤去・改修（共同募金配分事業）
- (2) 中庭 滝水槽内及び池水槽内防水工事
- (3) 感染症対策室整備工事（新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業）

4. 健康管理

- (1) 定期健康診断、結核検診、インフルエンザ予防接種等を実施した。
- (2) インフルエンザ・ノロウイルス・新型コロナウイルス感染症予防のための啓蒙、各所の消毒、加湿、検温など予防に努めた。
 - ・インフルエンザが発症した場合の予防薬投与について承諾を得た。
 - ・インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症流行対策のため、面会外出制限やオンライン面会を行った。
 - ・新型コロナウイルス感染対策マニュアルの改訂をした。
- (3) 新型コロナウイルス感染症対策として、正面玄関・職員玄関での検温消毒体制の整備、職員の1日2回の検温、消毒環境の充実に努めた。
- (4) 新型コロナウイルス感染症対策助成金を活用し、感染症対策室の整備を行った。
- (5) 熱中症予防のための啓蒙・水分補給を行った。
- (6) 食中毒防止のための啓蒙に努めた。

5. ニーズへの対応

- (1) 新型コロナウイルス感染症対策により外出できなかったため、代替として園内でできる行事を実施した。（お花見や収穫祭など）
- (2) 園の畑で収穫した野菜を使用してのおやつを提供した。

- (3) 月 2 回の食料品の訪問販売を実施した。
 - (4) 年 2 回の衣料品の訪問販売を実施した。
 - (5) 自分で洗濯が困難となった入所者へ、希望によりクリーニング業者を利用できるように対応した。
 - (6) 室内への冷蔵庫設置を希望する利用者への対応を行った。
6. 地域交流活動
- (1) 新型コロナウイルス感染症対策のため、今年度は自粛した
 - (2) 千匹アマビエプロジェクトを立ち上げ、折り紙で折ったアマビエを全国から募集し、4,500 点が集まった。集めた作品は、医王寺（飯坂）に奉納した。
7. 利用状況

定員		100 人		
入所	人数(3月31日現在)	102 人		
		通常入所		
		男	女	計
		29	73	102
		被災者受入		
		男	女	計
	0	0	0	
退所	人数(令和2年度)	13 人		
	理由	男	女	計
	長期入院	0	0	0
	死亡	2	5	7
	老人保健施設への転所	0	1	1
	他施設への転所	0	5	5
	自宅へもどる	0	0	0
	その他	0	0	0

地域密着型通所介護、介護予防・日常生活支援総合事業 福島恵風園デイサービスセンター

1. 運営管理

- (1) 利用者の生活の質の向上のため、担当者会議等に参加し、家族や各居宅介護支援事業所等と連携を図った。(新型コロナウイルス感染症予防のため、書面での参加を基本とした)
- (2) 外部利用者の送迎を安全に安心出来る体制で実施した。
- (3) 入浴介助については、介護職員の確保をし、充実した介助を実施した。
- (4) 各種行事については、季節に応じたレクリエーション等を実施した。
- (5) 食事については、栄養士と連携し個々人のニーズに沿った提供を実施した。
- (6) レクリエーション・機能訓練等、楽しみながら心身活性化の実施をした。
- (7) 年 2 回運営推進会議を開催し、地域との交流・連携を図った。(新型コロナウイルス感染症予防のため書面開催)
- (8) 事業所内外の研修に参加し、専門職としての質の向上を図った。

2. 衛生管理

- (1) 空気清浄器の整備を行い、施設内の消毒を1日2回実施し感染予防に努めた。
- (2) 浴槽のレジオネラ菌の検査を年1回実施した。
- (3) インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症の対策として、マスクの配布・手指消毒を実施し発生予防に努めた。
- (4) 職員が感染の媒体にならないよう消毒を徹底した。
- (5) パート職員への健康診断(労働安全衛生規則健診Ⅱ)を実施し、健康管理に努めた。

3. 施設整備

新型コロナ感染症予防のため、「オゾン発生器」「感染防止ボード」「二酸化炭素測定器」を導入した

4. 地域交流活動

- (1) 第25回吉井田地区文化祭に利用者の作品を出展すると共に、事業所のパンフレットを配布した。

5. 利用状況

年間延べ利用者数		2,269人	
1日平均利用者数		9.4人	
稼働日数		242日	
登録者	人数(3月31日現在)	37人	
	介護度内訳	事業対象者	2人
		支援1・2	2人
		介護1	6人
		介護2	14人
		介護3	9人
		介護4	1人
		介護5	3人

指定居宅介護支援事業

めぐみの風居宅介護支援センター

1. 活動状況及び事業内容

- (1) 利用者のニーズへの的確な対応及び生活の質の向上を目指し、関係諸機関との連携を図り、総合的かつ効率的な視点に基づくサービス提供を実施した。
- (2) 福島恵風園、福島恵風園デイサービスセンター、ホームヘルパーステーションめぐみと定期的に園内連携会議を開催し、園内利用者のニーズに即応した円滑な介護サービスの提供が行えるよう連携を図った。
- (3) 指定介護予防支援業務の委託を地域包括支援センターより受け、介護予防、総合事業のケアマネジメントを行った。
- (4) 要介護認定調査の委託を受け、要介護認定調査を行った。
- (5) 今年度はオンライン研修も多かったが各種研修会に参加し自己研鑽に努め、質の高いケアプランの作成や相談援助につなげた。
- (6) 地域包括ケアシステム構築に向け、地域ケア研修会や地域の諸団体との連携を図った。また、地域における主任介護支援専門員の役割として、研修の講師補助の協力を行った。

- (7) 利用者、家族の緊急時に対応するために、常時（24 時間）担当者と連絡をとれる体制を整え、営業時間以外にも対応を行った。
- (8) 業務遂行にあたり感染予防対策をマニュアルに沿って行うとともに、体調管理に努め、疾病に関する情報の提供を行った。

2. 利用状況

居宅サービス計画作成実件数(月平均)	75.7 件
予防委託実件数(月平均)	5.3 件
給付管理年間総数	908 件
認定調査年間実施総数	17 件
在宅訪問年間総数	1,127 件

指定訪問介護、介護予防・日常生活支援総合事業 ホームヘルプステーションめぐみ

1. 運営管理

- (1) 地域の利用者や福島恵風園の利用者を中心にホームヘルプサービスを提供した。個人の有する能力に応じた日常生活を営むことができるように入浴介助や排泄介助・食事介助など生活全般にわたる介護を提供した。
- (2) めぐみの風居宅介護支援センターや地域包括支援センター・福島恵風園との連携を密にしながら利用者のニーズに十分配慮し、経営基盤の安定に努めた。
- (3) サービス担当者会議への出席により、保健医療サービス、福祉サービス提供事業者との密な連携を図った。
- (4) 利用者のニーズに対応するため、勤務時間帯を必要に応じて変更し、充実したサービス提供に努めた。

2. 事業内容

- (1) 要介護者に対して訪問介護を提供した。
- (2) 福島恵風園の利用者が新型コロナウイルスの感染拡大防止策によりデイサービスへの通所を中止している期間において、居宅介護支援事業所の調節連携により利用者の保清のため、入浴や排泄介助などの身体介護のサービス提供を可能な限り行い対応した。
- (3) 定期的な事業所内研修を充実させ、外部研修は新型コロナウイルス感染拡大の状況を見極めて感染の予防に努めながら参加し、新たにオンライン研修にも取り組むなど、職員の資質の向上と専門性の研鑽に努めた。

3. 安全衛生管理

- (1) 新型コロナウイルス及びインフルエンザなどの感染予防策のため、マスク及びウイルス対策用品を備え使用した。
- (2) 1日2回の検温及び健康チェックを実施し、職員の健康管理を行った。また、異常を感じた時には早めに医療機関を受診し、感染の心配がなくなってから出勤するなど万全の感染予防に努めた。
- (3) 万が一感染者が発生した場合に媒体とならないよう消毒を徹底し、感染拡大予防に努めた。

- (4) 腰痛予防や転倒予防についての研修を重ね、スライドボード・スライドシートの使用やヘルパー二人体制でのサービス提供を行うなど、安全に業務を遂行するよう努めた。
- (5) パート職員への健康診断（労働安全衛生規則検診Ⅱ）を実施し健康管理に努めた。

4. 利用状況

年間延べ利用者数	12,458人
1日平均利用者数	34.2人
年間累計利用回数	22,092回
稼働日数	365日
人数（令和2年3月31日現在）	43人

登録者		
介護内訳	要支援1・2	0人
	要介護1	8人
	要介護2	11人
	要介護3	14人
	要介護4	5人
	要介護5	5人

老人福祉センター（福島市指定管理施設） 福島市わたりふれあいセンター

1. 運営管理

高齢者が健康で明るく楽しい日々を過ごすために、健康増進器具や囲碁・将棋及び図書、そして入浴並びに休憩等の施設を活用して憩いの場を提供した。

また、健康相談や子どもたちとのふれあいなどを通して、高齢者の心豊かで生きがいのある暮らしに寄与した。

2. 運営方針

- (1) 利用者の安全確保に努めるとともに、生活相談等の事業を実施することにより事業の目的達成に努めた。
- (2) 地域の各種機関・団体との連携を図り、施設を地域コミュニティ活動の場として開放し、サービスの提供に努めた。
- (3) 利用者が活動しやすい雰囲気づくりに努めた。

3. 事業内容

- (1) 新型コロナウイルス感染症対策を実施した。
- (2) 高齢者の生活相談、健康相談、健康指導を行うとともに、ホールを開放し利用の促進を図った。
- (3) ふれあい交流事業として世代間交流事業に参加した。

4. 利用状況

利用者数	個人	9:00～18:00	8,163 人
		上記のうち入浴者	7,035 人
	団体	9:00～18:00	10 件
		上記の人数	250 人

生きがい型デイサービス・外出支援事業（福島市受託事業） 福島市渡利デイサービスセンター

1. 運営管理

在宅で生活する介護保険対象外の比較的元気な高齢者及び家に閉じこもりがちな一人暮らしの高齢者に対し、通所により各種のサービスを提供することによって、生きがいと社会参加を促進するとともに、社会的孤立感の解消及び自立生活の助成に努めた。

2. 運営方針

- (1) 市の委託事業として、利用者の確保と各種行事の実施により、円滑かつ安定した事業の促進を図り、事業目的の達成に努めた。
- (2) 高齢者と子どもたちとの交流や、高齢者の生きがいと社会参加の促進に努めた。
- (3) 事業目的の達成のため、安全で安心して利用できるセンターとして、専門性を広く公開し、地域福祉の向上に努めた。

3. 事業内容

- (1) 新型コロナウイルス感染症対策を実施した。
- (2) 健康相談、送迎、入浴サービス、給食サービス（福島市契約書による）、レクリエーション、ふれあい交流事業を行った。
- (3) 生きがい活動として、趣味活動、日常動作訓練、遠足等を実施した。

4. 利用状況

年間延べ利用者数	930 人
1日平均利用者数	5.0 人
稼働日数	186 日
登録者数(3月31日現在)	55 人

保 育 所

福島隣保館保育所、福島保育所、瀬上保育所
福島わかば保育園、福島ふたば保育園、飯坂保育所

保育所

1. 運営管理

- (1) 多様な保育ニーズに応え、保護者が安心して預けられるよう質の高い保育に努めるとともに、子どもの生命保持と健やかな生活の基本となる健康安全の確保に当たった。
- (2) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度の外部者の受け入れは実習生・一時預かりのみとした。
- (3) 保育の質の向上を図るため、テーマを決め保育士（年2回）、栄養士（年2回）の研修に取り組んだ。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、合同研修会は行うことができなかったが、全員で共通理解が図れるよう紙面での報告を行った。
- (4) 保育サービス向上を図るため、福祉サービス第三者評価を飯坂保育所が受審した。
- (5) 副食費実費徴収額と主食の提供について、これまでの経過と他の私立認可施設の実態等を考慮し、検討を行った。
- (6) 新型コロナウイルス感染症対策のため、各関係機関との連携を密に対応した。
- (7) 福島県沖地震の際は、子どもの安全確認を行い、被害のあった福島保育所と飯坂保育所は修繕を行う。
- (8) 子育て支援の充実を図るため、ホームページを活用し地域還元の一環として、お母さんだじょうぶコーナーを引き続き行った。

2. 保育状況

- (1) 保育理念のもと、保育課程に基づき発達段階に応じた保育に努めた。
- (2) 保護者との共通理解のもと、家庭保育と集団保育との相互関係を大事にしながら保育を進めた。
- (3) 食育活動として、感染症対策をしながら季節の食材に触れることやクッキング活動等を通して、望ましい食生活について周知し、健全な心と体を育てた。
- (4) 子どもの心身の発達を阻害する事象を見逃さないように努めた。
- (5) 小学校へのアプローチプログラムの一環として、就学時の合同運動会を予定していたが、新型コロナウイルス感染対策のため中止した。

3. 食育状況

- (1) 食育年間計画、食育目標、食育方針を作成し、季節、年齢、発達段階に応じた食事の提供を行った。
- (2) 食の嗜好を常に把握しながら食事を提供し、保護者との連携を密に乳幼児の食生活の指導を行った。
- (3) 食育の促進について、保育士と栄養士との話し合いを深め全職員で取り組んだ。
- (4) 医師の診断をもとに、アレルギー除去食を実施した。
- (5) 食中毒防止に常に留意するとともに、保護者に安全を周知するように努めた。
- (6) 食べ物による窒息事故を防ぐために、マニュアルに基づき調理方法を工夫し安全に提供した。

4. 健康管理

- (1) 嘱託医による乳児健診（毎月）、内科健診（年2回）、歯科検診（年1回）を実施した。
- (2) 身体測定（毎月）を実施して、成長発達状況の把握に努めた。
- (3) 専門機関による尿検査（年2回）を実施した。
- (4) 衛生管理マニュアルに沿って、感染症の予防に努めた。
- (5) 異常気象により熱中症の予防に努めた。

5. 安全管理

- (1) 建物、器具、遊具等の点検を行い、安全管理に努めた。
- (2) 避難訓練・消火訓練は毎月行い、総合訓練は新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止とした。
- (3) 児童にわかりやすい防災、防犯の指導に努めた。
- (4) 交通安全指導の上で絵本や紙芝居を用いた実地指導を実施した。
- (5) 保育所の個人情報の取り扱いにおいては、関係者の同意を得ながら慎重に行った。
- (6) 前年度に福島わかば保育園で導入した見守りセンサーを福島市の補助制度を活用して他の5施設でも導入し、マット型センサーでの確認と目視確認で乳幼児の睡眠の安全管理に努めた。

6. 施設職員の資質向上

- (1) 施設外研修に参加した。
 - ① 各部会研修・研究会（施設長、主任保育士、保育士、給食担当者）へ参加
 - ② オンライン研修の参加
- (2) 施設協会内研修を実施した。
 - ① 年間テーマに基づいた年齢別研修・報告会は各施設で行った。
- (3) 施設内研修を実施した。
 - ① 保育課程に基づき保育計画・行事等の検討及び反省
 - ② 園外研修参加者による報告
 - ③ 施設ごとにテーマを設定した自主研修

7. 利用状況

施設名		福島隣保館 保育所	福島 保育所	瀬上 保育所	福島わかば 保育園	福島ふたば 保育園	飯坂 保育所	合計
定員		120	120	80	60	90	90	560
3月31日現在	年齢別 在籍人数							
	0歳	15	12	10	10	11	10	68
	1～2歳	37	37	28	22	33	28	185
	3歳	24	26	15	10	18	18	111
	4歳以上	52	48	38	22	36	39	235
	計	128	123	91	64	98	95	599
	充足率	106.7%	102.5%	113.8%	106.7%	108.9%	105.6%	107.0%
年間延べ	定員	1,440	1,440	960	720	1,080	1,080	6,720
	措置人数	1,516	1,477	1,067	755	1,142	1,131	7,088
	充足率	105.3%	102.6%	111.2%	104.9%	105.8%	104.8%	105.5%
	年齢別 在籍人数							
	0歳	145	143	95	92	99	105	679
	1～2歳	453	433	335	278	395	334	2,228
3歳	294	311	179	120	216	224	1,344	
4歳以上	624	590	458	265	432	468	2,837	
	計	1,516	1,477	1,067	755	1,142	1,131	7,088

地域子育て支援拠点事業（福島市受託事業）

わかば子育てセンター、せのうえ子育て支援センター（5日型）

いいざか子育て支援センター（6日型）

1. 運営管理

子育てを取り巻く環境は、核家族化、少子化とともに家庭機能の変化、地域社会のつながりの希薄化が深刻になってきた。子育て中の親たちやこれから子どもを産もうとしている親たちが抱く不安や悩み、孤独感を共有し、寄り添う支援を意識して事業を行った。

また、センターが地域における子育て支援の中心的役割が果たせるよう、関係する各種事業を推進するとともに、事業が円滑に進むよう関係機関、施設との連携を図った。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、4月・5月は来所して利用する「ひろば」の開催が休止になり、相談事業のみを行った。このようの中、外出を自粛し、家に閉じこもりがちになることに伴っての不安感や孤立感、虐待などが心配された。

再開後は、安心して利用できる場となるよう感染予防対策に努め、利用組数を制限し、感染予防情報などを収集して、利用者と共に感染予防に努めながら活動した。

2. 事業内容

(1) 子育て親子の交流の場の提供及び交流の促進

- ① ひろば休止中は、家でできる遊びの提供や工作キッドや手作りマスクを同封し「センターだより」を郵送した。またセンターから電話を掛けたり、電話を受けたりした時の対応を通して近況を確認し、予防情報を伝えるなど不安の軽減に努めた。
- ② 感染予防のために利用組数を制限することから、いいざか子育て支援センターにおいても電話予約を実施した。
- ③ 利用組数を制限したことで、一人ひとりの親子の様子が見え、年齢に合わせた環境作りをするなど細やかな対応ができたことで、子どもたちが安心して遊ぶ姿が見られた。
- ④ 福島県助産師会の協力や母子手帳配布に携わった保健師からの勧めで、初めて妊婦の参加があった。参加者は、出産直後の母体の変化についてなど、先輩母親と話していた。今後もこのような連携で、多くの方に利用してもらいたい。
- ⑤ わかば子育てセンター及びせのうえ子育て支援センターの開設時間(5時間)について、法人本部と検討会議を行い、現状を確認して今できることを実施していくこととした。わかば子育てセンターでは、園児の午睡に配慮したうえで場所を開放し、5時間開設を行うこととした。せのうえ子育て支援センターでは、場所の確保や園児の午睡中の開設など、多少の制限をしながら、令和3年度から暫定的な5時間開設を行い、引き続き検討していくこととした。
- ⑥ 3歳児保育料の無償化による満3歳からの入園が多くなったことも関係して、各センターともに0・1歳児の利用が中心となり、利用児が低年齢化した。
- ⑦ いいざか子育て支援センターで行っている土曜日の開催は、利用人数は少ないが、大人数が苦手な親子や幼稚園・保育園児の親子などが利用し、ゆったりと過ごしていた。

(2) 子育てに関する相談、援助の実施

- ① ほとんどがひろば利用時に受けるものであった。内容は、幼稚園や保育園入園や子育てのことが主で、内容によっては他の保護者にも繋ぎ、保護者同士でアドバイスし合えるよう配慮した。
 - ② 転入者では、医療機関や遊び場、幼稚園、保育園入園状況が知りたいなどの相談が多かった。
 - ③ 1歳半頃からのいわゆる「イヤイヤ期」の相談も多く、子どもの気持ちに寄り添う親の関わり方、言葉かけの大切さなどを伝えた。また、兄弟などの家族の悩みの相談もあった。
 - ④ せのうえ子育て支援センターでは、他支援センターとの連携で、療育を必要としている子を持つ利用者の相談にも応じ、その子の発達の見通しが持てるよう支援した。
- (3) 地域の子育て関連情報の提供
- ① 毎月のセンターだよりの発行やホームページの更新に加え、福島市の子育てアプリ「母子モ」の運用も加わり、センターの情報が一層広まった。
 - ② 関連パンフレットを常時展示、配布し情報の提供を行った。
- (4) 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施
- ① 4か月健診が医療機関での受診になったこと、市主催の講座がコロナ禍のためリモート開催になったことなどで離乳食の基礎や調理法などを知る機会が狭まった。そのため、離乳食講座では、感染対策をしながら具体的に理解できるよう、実際に食す取り組みを行った。幼児の食育講座では、食事の準備にかかわる経験の大事さを伝えたり、実食したりして、個々に応じた言葉かけなどを行った。
 - ② 参加保護者の持っているスキルを活かした講座を開催し、保護者が主体的に活動できる取り組みを行った。参加者が負担感とならないように配慮し、今後も続けたい。
- (5) 関係機関との連携・事業協力
- ① 各方部センターとの交流を行い、利用親子の情報の共有や支援、事業内容の向上などを図った。
 - ② 市保健師、センター連絡会などと交流し、利用者の現状理解と支援の助言を得る機会を持った。また、赤ちゃん応援隊の見学受入れや地域サークルへの活動支援も継続し行った。

3. 利用状況

(1) 年間利用状況

事業別利用者数	施設名		わかば子育てセンター		
	事業項目	開催回数 (回)	利用数		
			子ども(人)	大人(人)	合計(人)
	子育て広場 コーナー開放	140	389	423	812
親子教室	13	77	81	158	
赤ちゃん広場「ピヨピヨ広場」	43	200	200	400	
わかば「子育て広場」	9	55	55	110	
合計	205	721	759	1,480	
事業別利用者数	施設名		せのうえ子育て支援センター		
	事業項目	開催回数 (回)	利用数		
			子ども(人)	大人(人)	合計(人)
	子育て広場「いちょうひろば」	146	525	622	1,147
親子教室「のびのびくらぶ」	22	115	123	238	
赤ちゃん広場「あかちゃんこんにちは」	33	152	147	299	
所庭開放・コーナー開放	182	5	7	12	
合計	383	797	899	1,696	
事業別利用者数	施設名		いいざか子育て支援センター		
	事業項目	開催回数 (回)	利用数		
			子ども(人)	大人(人)	合計(人)
	子育て広場「こぶし広場」	159	465	568	1,033
親子教室	22	141	144	285	
赤ちゃん広場	31	72	74	146	
センター開放	245	101	120	221	
合計	457	779	906	1,685	

(2) 子育て等に関する相談件数

施設名	相談方法内訳			合計
	電話	来所	訪問	
わかば子育てセンター	22	112	1	135
せのうえ子育て支援センター	11	100	0	111
いいざか子育て支援センター	4	46	0	50
合計	37	258	1	296

児童厚生施設

設置運営施設

福島市東浜児童センター 福島市野田児童センター
 福島市指定管理施設
 福島市蓬莱児童センター 福島市清水児童センター
 福島市渡利児童センター

1. 運営管理

新型コロナウイルス感染症への不安を抱えながら、新しい生活様式を取り入れた運営となった。地域の児童健全育成の活動拠点として、地域における遊びの援助と子育て支援を行い、子どもの心身を育成し、情緒を豊かにすることに努めた。

2. 活動状況

- (1) 学校の休業・長期休みなど生活リズムが不規則化したことにより、子どもの心身の健康が心配される中、知的、社会的能力が衰えないよう情緒を豊かにするよう援助した。

- (2) 三密を避けるなど活動に制限が加えられる中、自主性を尊重しようと努めた。同年齢や異年齢の集団形成については小グループにして実行に努めた。
- (3) 子どもの自己効力感や自己肯定感を育てるには限界があったが、戸外での活動を増やすとともに、室内では小グループで活動するよう努めた。
- (4) 子どもが自発的に活動することは困難な中、少人数ずつ思いを受け止め寄り添い、子どもの意見を尊重するよう努めた。
- (5) 問題を抱えている子どもが増加傾向にあったが、関係機関と連携を密にして対応に努めた。
- (6) 児童が学校に行っている時間を利用するなど、幼児クラブなど子どもと保護者が自由に交流できる場を提供し、子育て支援に努めた。
- (7) 児童センターの役割への理解を目指して、広報誌の発行、ホームページへの更新など広報活動の充実に努めた。
- (8) 事業の中止などにより、学生ボランティアや地域のボランティアの受け入れが困難であった。
- (9) 様々な制限がある中で、放課後児童クラブを実施するとともに、登録児童と自由来館児童が少しでも交流できるよう工夫をし、遊びや活動の配慮に努めた。
- (10) 子どもの安全・衛生管理や防災・防犯対策などに努めた。特に、手洗い・消毒など新型コロナウイルス感染症防止対策に努めた。
- (11) 研修の機会が減り、継続的な研修の実施が困難であった。

3. 利用状況

施設名		東浜 児童センター	野田 児童センター	蓬萊 児童センター	清水 児童センター	渡利 児童センター	合計
利用者数	幼児	928	260	566	453	1,494	3,701
	1～3年	2,786	8,280	5,099	9,149	7,585	32,899
	4～6年	406	461	615	382	735	2,599
	中高生	117	143	410	76	836	1,582
	大人	694	311	1,583	357	1,491	4,436
	計	4,931	9,455	8,273	10,417	12,141	45,217
	上記のうち登録児童	1,979	7,935	4,589	8,756	6,510	29,769
1日平均利用者	16.7	32.3	28.3	35.6	43.4	156.3	
開館日数(日)		296	293	293	293	280	